

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書  
【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項  
【提出先】 関東財務局長  
【提出日】 平成26年2月6日  
【四半期会計期間】 第13期第3四半期（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）  
【会社名】 シダックス株式会社  
【英訳名】 SHiDAX CORPORATION  
【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 志太 勤一  
【本店の所在の場所】 東京都調布市調布ヶ丘三丁目6番地3

（上記は登記上の本店所在地であり、実際の本社業務は下記の場所で行っております。）

【電話番号】 03（5784）8881（代表）  
【事務連絡者氏名】 取締役 管理本部長 兼 経理財務本部長 兼 IR担当 若狭 正幸  
【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区神南一丁目12番13号  
【電話番号】 03（5784）8881（代表）  
【事務連絡者氏名】 取締役 管理本部長 兼 経理財務本部長 兼 IR担当 若狭 正幸  
【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第12期 第3四半期 連結累計期間	第13期 第3四半期 連結累計期間	第12期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	139,507	143,287	186,185
経常利益(百万円)	3,190	1,506	5,253
四半期(当期)純利益(百万円)	1,248	196	2,658
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,262	725	3,818
純資産額(百万円)	20,608	24,895	25,335
総資産額(百万円)	87,604	102,158	94,284
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	34.07	4.98	72.64
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	23.4	24.3	26.7
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	6,665	5,482	10,104
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,936	8,863	1,384
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	4,363	4,989	6,036
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	9,391	13,492	11,789

回次	第12期 第3四半期 連結会計期間	第13期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額(円)	14.36	4.01

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策・日銀による金融緩和政策により景気回復傾向にある一方で、円安基調による値上げの影響や、米国・新興国経済の先行き等、依然として不透明な状況で推移しております。個人消費におきましても、雇用・所得環境の大幅な改善はみられず、経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような環境のもと当社グループは、“フードサービスから公共サービスまで提供可能な水平垂直統合型の企業構造”で他社との差別化を図り、高品質・高付加価値のサービスを提供するとともに、より一層の「安心・安全」な管理体制の強化、グループ総合力を活かした営業拡大に努めてまいりました。また、「はぐくむ、大切なことのすべて」という基本理念のもと、運動と心に関わるサービスの提供をより強化するために、「シダックス・カルチャービレッジ」（東京都渋谷区神南）をスタートさせ、当該施設を新しい価値の創造と情報発信の拠点として位置づけ、カルチャースクールとスポーツクラブを融合させたスポーツ&カルチャー事業における新しいサービス「CULTURE WORKS」としてスタートさせました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は143,287百万円（前年同四半期比2.7%増）となりました。利益面につきましては、新規事業スポーツ&カルチャー事業の展開の投資などが先行したため、営業利益は2,055百万円（前年同四半期比42.7%減）となり、経常利益は1,506百万円（前年同四半期比52.8%減）、四半期純利益は196百万円（前年同四半期比84.2%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### エスロジックス事業

当社グループのスケールメリットを最大限に活かし、安全性・信頼性の高い商品を徹底した衛生管理体制で一括発注・配送を展開してまいりました。また、一元物流システムをより合理的に活用できるよう、標準メニュー導入の促進、調達コスト・物流コストの削減、在庫の削減などに努めるとともに、同業他社とのアライアンスによる共同購買機構によってスケールメリットを最大限に活用し、収益性の向上にも努めてまいりました。さらに、健康効果が期待される食事メニューの開発、トレーサビリティ、アレルゲン関連など、付加価値の向上にも努め「安心・安全」な食材の供給を行ってまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の内部売上高を含めた売上高は34,334百万円（前年同四半期比5.6%減）、セグメント利益は2,802百万円（前年同四半期比1.5%減）となりました。

#### コントラクトフードサービス事業

大手同業他社との競争激化に加え、一部の業種においては円安・株高の影響を受け、生産・輸出・雇用等が持ち直す動きがありました。経営環境は依然として厳しい状況にあります。このような環境のもと、平成24年11月から和食の道場六三郎氏、イタリア料理の落合務氏、四川料理の陳建一氏と「シダックス料理人企画」をスタート、各料理人による監修メニューの提供や調理実演イベントを行うなど、食を通じて“高級化”と“エンターテインメント”の要素を取り入れた新たな試みを行っております。一元物流システムの導入強化、コスト管理の徹底、既存店舗の解約防止、赤字店舗の運営改善強化などによって収益性の向上を目指してまいりました。また、多様化するお客様のニーズを的確に捉え、車両運行管理サービスなどを含んだ総合的なソリューション提案を行い、収益向上を目指すとともに、新規案件とも連動して開発を強化し、事業拡大に努めてまいりました。さらに、福島県相馬市の仮設住宅への食事提供など、震災復興支援活動にも積極的に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は23,098百万円（前年同四半期比0.8%減）、セグメント利益は1,368百万円（前年同四半期比2.6%減）となりました。

### メディカルフードサービス事業

病院・福祉施設などの経営環境が厳しい状況の中、同業他社との競争は厳しさを増す状況が続いております。このような環境のもと、「出張回転寿司」などのイベントを展開、平成24年11月から実施している3大料理人（和食の道場六三郎氏、四川料理の陳建一氏、イタリア料理の落合務氏）とのコラボレートに続き、今年、青山有紀さん、加賀田京子さんの2大女性料理人と契約し、メニュー開発や調理実演などのイベントを展開してまいりました。また、一元物流システムの導入強化、コスト管理の徹底、既存店舗の解約防止、赤字店舗の運営改善強化などによって収益性の向上に努めてまいりました。また、高品質なサービスの提供を行うとともに、セントラルキッチンを活用した「やわらかマザーフード食」など独自色の強い商品の提供を行い、お客様満足度の向上に努めてまいりました。さらに、トータルアウトソーシングを意識した新規クライアントの営業開発にも努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は27,245百万円（前年同四半期比1.0%増）、セグメント利益は832百万円（前年同四半期比6.4%減）となりました。

### レストランカラオケ事業

国内における状況は、個人消費において、雇用・所得環境の大幅な改善はみられず、消費マインドは足踏み状態にあり、支出の多様化、競合他社はもとより業種を超えた競争が激化し、事業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いております。このような環境のもと、レストランカラオケを展開するシダックス・コミュニティー株式会社の創業20周年を記念して、7月～8月の2カ月間、17時～24時にご入室のすべてのお客様に、お支払い総額から20%OFFのサービスを行う「お客様に感謝をこめて！20周年ありがとうキャンペーン」を実施し、カラオケ業界初の試みとして、日本を代表する3大料理人（和食の道場六三郎氏、イタリア料理の落合務氏、四川料理の陳建一氏）監修による本格的な「三大巨匠・ディナーコース」の提供をいたしました。さらに9月20日から、「BoA」「東方神起」「SUPER JUNIOR」「少女時代」「SHINee」の所属するS.M.エンタテインメントと共同事業で、アーティストとのコラボレーションルームを展開する「eVERYSING with SHIDAX」を都内2店舗でオープンなど様々な集客施策を行い、販売促進を強化するとともに、コスト管理を徹底し、収益性の向上に努めてまいりました。また、ケータイ会員を拡大（790万人突破）し集客を図るとともに、ターゲットを明確にしたOne to Oneマーケティングによる個々の顧客へのアプローチを確立し、マーケティングの精度・効果の向上に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は31,571百万円（前年同四半期比7.5%減）、セグメント利益は810百万円（前年同四半期比48.0%減）となりました。

### スペシャリティールレストラン事業

米国における状況は、失業率の低下や好調な株式市況を背景に個人消費が堅調であり、経済の回復傾向が続いております。このような環境のもと、季節メニューイベントの実施、パーティー、ケータリング受注の強化等の売上増加策及び労務コストの見直し等により収益性の強化を図ってまいりました。国内における状況は、個人消費において、雇用・所得環境の大幅な改善はみられず、消費マインドは足踏み状態にあり、支出の多様化、競合他社はもとより業種を超えた競争が激化し、事業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いております。このような環境のもと、イベント企画の強化、会員限定プランの実施により、集客力アップを図るとともに、コスト管理の徹底を行い収益性の向上に努めてまいりました。また、お客様の多種多様なニーズにお応えするためのメニュー開発及び接客サービスの向上に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は16,798百万円（前年同四半期比29.3%増）、セグメント損失は221百万円（前年同四半期は292百万円のセグメント損失）となりました。

### コンビニエンス中食事業

同業他社・大手コンビニエンスストアとの出店競争が依然厳しい環境ではありますが、当第3四半期累計で新規店舗を13店舗出店し、お客様の生活ニーズに応じた利便性向上・満足度向上の実現に取り組んでまいりました。商品・サービス面においては、バーゲン本催事販売の実施店舗を全国に積極的に拡大するとともに、沖縄フェア・八口ウィンフェア・クリスマスフェアなど季節感を演出する企画での販売促進を行ってまいりました。また、運営面では、取引先集約による値入改善を進めるとともに、労務費及び消耗品などの経費の効率的運用を行い、既存店のブラッシュアップと赤字店舗の改善に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は11,239百万円（前年同四半期比2.4%増）、セグメント利益は338百万円（前年同四半期比0.0%減）となりました。

### トータルアウトソーシング事業

公共サービス分野では、地方自治体における財政再建と地域活性化へのニーズが高まっており、着実に民間委託が進んでおります。一方、民間サービス分野では、経済全体に明るい兆しが見られるものの、コスト削減に対するクライアント要求が続く中、同業他社との競争は激化しており、厳しい経営環境が続いております。

このような環境のもと、車両運行管理業務においては、お客様のニーズに応じた車両運行サービスの提案を行い、千葉県南房総市、佐賀県多久市等からスクールバス業務を受託した他、千葉県君津市よりデマンドタクシー業務を受託する等幅広い業務の新規受注に努めてまいりました。社会サービス業務においては、従来から事業の柱であります学校給食業務及び図書館業務に加え、北海道沼田町、山梨県上野原市等から指定管理者として施設管理・運営を受託するとともに、既存契約の運営改善を図り、売上向上と収益確保に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は28,867百万円（前年同四半期比2.7%増）、セグメント利益は1,521百万円（前年同四半期比11.0%増）となりました。

### (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ7,874百万円増加し102,158百万円（前連結会計年度末比8.4%増）となりました。流動資産においては、2,174百万円増加し33,896百万円となりました。これは主に、現金及び預金が1,702百万円増加したことによります。固定資産においては、5,699百万円増加し68,262百万円となりました。これは主に、投資その他の資産が928百万円減少した一方、渋谷シダックスビレッジの取得等により有形固定資産が7,203百万円増加したことによります。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ8,314百万円増加し77,263百万円（前連結会計年度末比12.1%増）となりました。流動負債においては、1,495百万円増加し43,601百万円となりました。これは主に、未払法人税等が1,195百万円及び賞与引当金が864百万円減少した一方、支払手形及び買掛金が739百万円、1年内返済予定の長期借入金が672百万円、その他に含まれている未払金が832百万円並びに未払消費税等が919百万円増加したことによります。固定負債においては、6,819百万円増加し33,662百万円となりました。これは主に、社債が760百万円及びその他に含まれているリース債務が1,240百万円減少した一方、長期借入金が8,896百万円増加したことによります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ440百万円減少し24,895百万円（前連結会計年度末比1.7%減）となりました。これは主に、為替相場の変動により為替換算調整勘定が399百万円増加した一方、四半期純利益196百万円の計上と剰余金の配当601百万円により利益剰余金が404百万円減少、取締役会決議による自己株式取得により自己株式が530百万円増加したことによります。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ2.4ポイント低下し24.3%となりました。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,702百万円増加し13,492百万円（前連結会計年度末比14.4%増）となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、5,482百万円の資金増加（前年同四半期は6,665百万円の資金増加）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が1,702百万円計上されたほか、賞与引当金の減少額が912百万円及び法人税等の支払額が2,917百万円発生した一方、減価償却費が4,887百万円、のれん償却額及び負ののれん償却額が641百万円、仕入債務の増加額が634百万円、未払消費税等の増加額が898百万円並びに未払費用の増加額が433百万円あったことによります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、8,863百万円の資金減少（前年同四半期は1,936百万円の資金減少）となりました。これは主に、敷金及び保証金の回収による収入が1,352百万円、有形固定資産の売却による収入が976百万円あった一方、有形固定資産の取得による支出が10,606百万円、敷金及び保証金の差入による支出が245百万円並びに事業譲受による支出が187百万円あったことによります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、4,989百万円の資金増加（前年同四半期は4,363百万円の資金減少）となりました。これは主に、短期借入金の返済による支出が517百万円、リース債務の返済による支出が1,829百万円、長期借入金の返済による支出が8,681百万円、社債の償還による支出が760百万円、配当金の支払額が601百万円並びに自己株式の取得による支出が530百万円あった一方、長期借入れによる収入が18,000百万円あったことによります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

(6) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、前連結会計年度末において計画中であったシダックス・コミュニティー(株)におけるレストランカラオケ店舗 高知追手筋クラブの新設につきましては、平成25年11月に完了し営業を開始しております。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	140,000,000
計	140,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月6日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商 品取引業協会名	内容
普通株式	40,918,762	40,918,762	東京証券取引所 JASDAQ(スタンダード)	単元株式数100株
計	40,918,762	40,918,762	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額(百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	-	40,918,762	-	10,781	-	10,186

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 1,938,600	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 38,953,700	389,537	-
単元未満株式	普通株式 26,462	-	-
発行済株式総数	40,918,762	-	-
総株主の議決権	-	389,537	-

（注）「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が22,322株含まれております。  
「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数223個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
（自己保有株式） シダックス㈱	東京都調布市調布ヶ丘 三丁目6番地3	1,938,630	-	1,938,630	4.73
計	-	1,938,630	-	1,938,630	4.73

（注）1 株主名簿上は、当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が800株（議決権8個）あります。なお、当該株式は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式（その他）」欄に含めております。  
2 当第3四半期会計期間末日現在における所有自己株式は、1,938,774株（発行済株式総数に対する所有株式数の割合4.74％）であります。

2 【役員】の状況】

前連結会計年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

退任役員

役名	氏名	退任年月日
監査役（常勤）	丸井 哲也	平成25年8月31日



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していません。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,021	13,724
受取手形及び売掛金	12,751	13,577
商品及び製品	1,146	1,325
原材料及び貯蔵品	1,184	1,508
その他	4,630	3,781
貸倒引当金	14	21
流動資産合計	31,721	33,896
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	18,784	18,841
その他(純額)	9,484	16,630
有形固定資産合計	28,268	35,472
無形固定資産		
のれん	9,736	9,433
その他	1,509	1,237
無形固定資産合計	11,246	10,671
投資その他の資産		
敷金及び保証金	9,869	8,763
その他	13,619	13,782
貸倒引当金	442	427
投資その他の資産合計	23,047	22,118
固定資産合計	62,562	68,262
資産合計	94,284	102,158

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,449	9,188
短期借入金	346	-
1年内返済予定の長期借入金	12,847	13,519
1年内償還予定の社債	760	760
未払法人税等	1,698	503
ポイント引当金	310	314
役員賞与引当金	50	24
賞与引当金	2,191	1,327
株主優待引当金	246	95
その他	15,205	17,868
流動負債合計	42,105	43,601
固定負債		
社債	2,260	1,500
長期借入金	15,147	24,044
役員退職慰労引当金	575	596
資産除去債務	3,091	3,149
その他	5,768	4,371
固定負債合計	26,843	33,662
負債合計	68,948	77,263
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,781	10,781
資本剰余金	4,128	4,128
利益剰余金	10,936	10,531
自己株式	275	805
株主資本合計	25,571	24,636
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	852	964
為替換算調整勘定	1,205	805
その他の包括利益累計額合計	352	159
少数株主持分	116	99
純資産合計	25,335	24,895
負債純資産合計	94,284	102,158

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

( 単位：百万円 )

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	139,507	143,287
売上原価	120,848	126,083
売上総利益	18,658	17,203
販売費及び一般管理費	15,069	15,147
営業利益	3,589	2,055
営業外収益		
受取利息	13	21
受取配当金	9	9
団体定期配当金	116	103
負ののれん償却額	111	111
その他	276	132
営業外収益合計	526	379
営業外費用		
支払利息	668	808
その他	256	119
営業外費用合計	925	927
経常利益	3,190	1,506
特別利益		
固定資産売却益	14	6
投資有価証券売却益	-	165
退店補償金受入益	70	-
その他	-	28
特別利益合計	84	200
特別損失		
減損損失	-	3
レストラン等店舗閉鎖損	35	1
その他	0	-
特別損失合計	35	4
税金等調整前四半期純利益	3,239	1,702
法人税、住民税及び事業税	1,437	976
法人税等調整額	542	520
法人税等合計	1,980	1,496
少数株主損益調整前四半期純利益	1,258	205
少数株主利益	10	8
四半期純利益	1,248	196

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,258	205
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	112
為替換算調整勘定	4	380
持分法適用会社に対する持分相当額	-	27
その他の包括利益合計	3	519
四半期包括利益	1,262	725
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,251	708
少数株主に係る四半期包括利益	10	17

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,239	1,702
減価償却費	5,009	4,887
減損損失	-	3
のれん償却額及び負ののれん償却額	610	641
賞与引当金の増減額(は減少)	1,052	912
貸倒引当金の増減額(は減少)	32	8
株主優待引当金の増減額(は減少)	125	151
受取利息及び受取配当金	22	31
支払利息	668	808
投資有価証券売却損益(は益)	-	165
固定資産売却損益(は益)	14	6
退店補償金受入益	70	-
売上債権の増減額(は増加)	183	733
たな卸資産の増減額(は増加)	243	428
未収入金の増減額(は増加)	125	308
仕入債務の増減額(は減少)	884	634
未払消費税等の増減額(は減少)	311	898
未払金の増減額(は減少)	96	372
未払費用の増減額(は減少)	230	433
預り金の増減額(は減少)	508	392
その他	47	468
小計	9,173	9,114
利息及び配当金の受取額	22	30
利息の支払額	641	792
保険金の受取額	-	46
法人税等の支払額	1,888	2,917
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,665	5,482

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金及び拘束性預金の預入による支出	434	310
定期預金及び拘束性預金の払戻による収入	310	310
有形固定資産の取得による支出	1,211	10,606
有形固定資産の売却による収入	92	976
無形固定資産の取得による支出	99	63
資産除去債務の履行による支出	-	52
投資有価証券の売却による収入	-	168
子会社株式の取得による支出	22	53
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	81
事業譲受による支出	82	187
敷金及び保証金の差入による支出	738	245
敷金及び保証金の回収による収入	292	1,352
その他	42	69
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,936	8,863
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	896	138
短期借入金の返済による支出	580	517
割賦債務の返済による支出	-	228
リース債務の返済による支出	2,431	1,829
長期借入れによる収入	7,214	18,000
長期借入金の返済による支出	9,506	8,681
社債の発行による収入	1,759	-
社債の償還による支出	630	760
配当金の支払額	561	601
自己株式の取得による支出	517	530
その他	5	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,363	4,989
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	93
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	367	1,702
現金及び現金同等物の期首残高	9,023	11,789
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,391	13,492

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第2四半期連結会計期間より、シダックスビューティーケアマネジメント(株)は新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

当第3四半期連結会計期間より、(株)旬菜は株式の取得により子会社となったため、連結の範囲に含めておりません。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

連結子会社であるシダックス・コミュニティー(株)が有する店舗建物に係る入居保証金の返還請求権の一部を芙蓉総合リース(株)に譲渡いたしました。当該譲渡契約において売主であるシダックス・コミュニティー(株)は、譲渡契約日及び譲渡代金受取日現在において、買主に上記のとおり譲渡した返還請求権に関連する一定の事項について表明及び保証を行っており、これに違反する事実が判明した場合には損害賠償その他譲渡契約に定める金銭支払の責任を負うこととなります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
損害賠償その他譲渡契約に定める金銭支払の責任の上限額	895百万円	704百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
現金及び預金勘定	9,750百万円	13,724百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	232百万円	232百万円
拘束性預金	126百万円	-百万円
現金及び現金同等物	9,391百万円	13,492百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月23日 取締役会	普通株式	560	15	平成24年3月31日	平成24年6月14日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月20日 取締役会	普通株式	601	15	平成25年3月31日	平成25年6月12日	利益剰余金



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								その他 (注)	合計
	エスロ ジックス 事業	コントラ クトフ ードサー ビス事 業	メディカ ルフ ード サー ビス 事業	レスト ラン カラ オ ケ事 業	スペ シャ リ ティ ー レ ス ト ラ ン 事 業	コン ビ ニ エ ン ス 中 食 事 業	ト ー タ ル ア ウ ト ソ ー シ ン グ 事 業	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	898	23,291	26,974	34,138	12,990	10,978	28,105	137,377	2,130	139,507
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	31,617	550	7	27	52	14	98	32,367	1,305	33,672
計	32,515	23,842	26,982	34,165	13,042	10,992	28,204	169,744	3,435	173,179
セグメント利益又は セグメント損失 ( )	2,845	1,404	889	1,558	292	338	1,371	8,115	100	8,215

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光施設内物販飲食事業及びスポーツ施設附帯宿泊事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	8,115
「その他」の区分利益	100
セグメント間取引消去	50
全社費用(注)	4,575
四半期連結損益計算書の営業利益	3,589

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

当第3四半期連結累計期間において、重要な負ののれん発生益の認識はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント								その他 (注)	合計
	エスロ ジックス 事業	コントラ クトフ ードサー ビス事 業	メディカ ルフ ードサ ービス 事業	レストラ ンカラ オケ事 業	スペシャ リティー レストラ ン事業	コンビニ エンス中 食事業	トータル アウト ソーシ ング事 業	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	1,290	23,098	27,245	31,571	16,798	11,239	28,867	140,111	3,176	143,287
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	33,044	552	7	262	63	13	95	34,038	1,423	35,461
計	34,334	23,650	27,252	31,833	16,861	11,252	28,962	174,149	4,599	178,748
セグメント利益又は セグメント損失 ( )	2,802	1,368	832	810	221	338	1,521	7,453	579	6,873

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光施設内物販飲食事業及びスポーツ施設附帯宿泊事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	7,453
「その他」の区分利益	579
セグメント間取引消去	114
全社費用(注)	4,703
四半期連結損益計算書の営業利益	2,055

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

当第3四半期連結累計期間において、重要な負ののれん発生益の認識はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	34円7銭	4円98銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,248	196
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,248	196
普通株式の期中平均株式数(株)	36,629,982	39,512,213

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月6日

シダックス株式会社

取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山本 守 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 浅野 俊治 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 河合 宏幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているシダックス株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、シダックス株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表等の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれておりません。